

地質調査所研究資料集

この資料集は、地質調査所資料室（電話（0298）54-3605）で閲覧できます。

地質調査所研究資料集 No. 119

吉井守正（1988）

地質調査所九州地域地質センター研究資料の総索引 1988. 83p.

内容紹介

地質調査所九州地域地質センターの前身である軍需省地下資源調査所山鹿分室が1945年3月に開設されて以来、永年にわたって蓄積された未公表資料を整理・分類して、598件を公開した。本書は、その対象別・地域別・著者別索引である。資料の中から56件を抜粋して、地質調査所研究資料集（オープンファイル）の nos. 62-117 に登録した。登録資料の要旨も本書に収録されている。

地質調査所研究資料集 No. 62

今野円蔵・松本達郎

対馬地質調査中間報告. 15p., 1 fig.

内容紹介

地質調査は1943年に1ヶ月間行われた。地質は主として対州層群と、これを貫く黒雲母花崗岩・石英斑岩・ひん岩・はんれい岩及び第四紀層から成る。対州層群は、動植物化石から、中生界ではなく、古第三系に属する疑いがある。対州層群は北東-南西方向の軸をもつ褶曲構造を示す。褶曲軸の方向は、島軸方向の北北東-南南西とやや斜交する。対州層群に貫入する火成岩類は、いずれも後火成変質作用を受け、黄鉄鉱・黄銅鉱・閃亜鉛鉱・方鉛鉱などを生じて、一部で稼行されている。

地質調査所研究資料集 No. 63

種子田定勝

古賀山、杵島炭砒付近の火山岩類（地質概説）。15p.

内容紹介

佐賀県の杵島炭砒付近には玄武岩類・讃岐岩・安山岩質角礫凝灰岩及び溶岩などが分布する。玄武岩類は第三系（芦屋層群）を直接覆い、一般に暗黒色粗粒ないし中粒で、橄欖石を含み単斜輝石・斜方輝石を伴う。讃岐岩は黒色緻密ないし灰色多少多孔質で流状構造がよく発達する。安山岩質角礫凝灰岩は紫蘇輝石角閃石安山岩・両輝石角閃石安山岩・玄武岩などの角礫から成る。地質調査年不明。

地質調査所研究資料集 No. 64

鹿児島大学桜島火山活動研究会

昭和33年度桜島火山活動研究成果報告（演旨）。10p.（所員のみ利用可）

地質調査所研究資料集 No. 65

工業技術庁地質調査所福岡支所

地下資源案内 Nos. 1-5. 21p.

内容紹介

印刷事情の悪かった1949-50年に発行された小冊子で、地調月報発刊とともに廃刊した。次の

記事が掲載されている。発刊の御挨拶, MIEAC (Metals and Industrial Minerals Exploration Advisory Committee) の設立, 宮崎県南那珂郡細田町付近の炭層, 経済安定本部の「鉱床調査の標準化に関する勧告」の概要, 北海道十勝国カムイ砂金鉱について, 九州地方の非金属鉱床について, 長崎県五島列島の総合資源開発, 長崎県島原半島北端部多良付近のタングステンを含む鉱滓について, 熊本県天草郡下島の所謂油微地(以上1号), 大分県下苦灰岩鉱床に就いて, 小倉市宇高津尾黒鉛鉱床(2号), 地質調査所福岡支所の有り方, 佐賀県唐津炭田相知地区の地質, 硫酸原料としての磁硫鉄鉱, 全国埋蔵炭量調査事業(3号), 北松炭田世知原地区の第四紀砂礫層に就いて, 天然ガス資源に就いて(4号), 長崎県佐世保炭田九十九島地区の地質, 黒島の地質, 地質調査所月報の刊行について(5号)。

地質調査所研究資料集 No. 66

稲井信雄

宮崎県北部地区地下資源調査報告. 42p., 2tab.

内容紹介

古・中生層中に胚胎される秋元マンガン鉱床・日ノ本赤白珪石鉱床, 岩戸ドロマイト鉱床, 国見ヶ丘クロム鉄鉱床, 及び新第三紀花崗岩の貫入に伴う鉱脈として銅・鉛・亜鉛・銀を産する土呂久及び見立鉱床, ベグマタイト中のカリ長石・珪石を稼行する高千穂鉱床について調査を行った。秋元鉱床は走向延長 250 m, 傾斜延長 150 m 以上の規模で, 主としてチョコレート鉱を産し品位は 47-53 % Mn. 日ノ本鉱床は走向延長 20 m, 傾斜延長 10 m, 幅 14 m で, 赤白珪石の品位は 91-97 % SiO₂, 1-3 % Fe₂O₃, 0-4 % MnO. 岩戸鉱床のドロマイトの品位は平均 15 % MgO. 国見ヶ丘鉱床は蛇紋岩中に連球状に胚胎され, クロム鉄鉱の品位は約 46 % Cr₂O₃. 土呂久鉱床の銅鉱の品位は 3.5-4.7 % Cu, 月産 120-130 トン, 同じく鉛鉱 56 % Pb, 約 5 トン. 高千穂鉱床のベグマタイトは延長約 150 m, 幅約 20 m. 長石の推定埋蔵量は約 3 万トン. 地質調査年不明.

地質調査所研究資料集 No. 67

大平鉱業尾平鉱業所

尾平鉱床探査計画説明資料. 6p. (所員のみ利用可)

地質調査所研究資料集 No. 68

小溝精二

福岡県鞍手郡吉川村縁山鉱山調査報告書. 7p.

内容紹介

鉱床調査は 1944 年に行われた。鉱床は直方市の南西 16 km にある。周辺の地質は主に結晶片岩と, これに貫入する花崗岩から成る。鉱床は絹雲母片岩中の含銅硫化鉄鉱で, 鉱体の走向 N 80°-85° E, 傾斜 60° W, 幅は変化に富む。鉄鉱は銅鉄で, 黄鉄鉱に黄銅鉄が密雑している。富鉄部での品位は約 10 % Cu という。残鉄は約 3 千トン, 品位約 2 % Cu, これらは月産 30-40 トン (2 % Cu) の出鉄が可能と推定される。

地質調査所研究資料集 No. 69

和田利雄・井上秀雄

長崎県南松浦郡奈留島村奈留島鉱山付近鉱床及地質調査報告. 4p., 1fig.

内容紹介

鉱床調査は 1949 年 8 月に 9 日間行われた。鉱床周辺の地質は中生代の砂岩・粘板岩及びそれらを貫く石英粗面岩・斑岩が岩脈又は岩床から成る。鉱床は石英粗面岩中の浅熱水性鉄脈として

産出する。鉱石は主に黄鉄鉱で、直径 3-5 cm の五角十二面体結晶として産出し、カオリナイト・セリサイトを伴う。鉱脈の走向はN 20°Eで傾斜は垂直。規模は走向延長約 15 m、傾斜延長約 4 m、幅 1-1.5 m。当時までに黄鉄鉱数十トンを探掘。

地質調査所研究資料集 No. 70

稲井信雄

小国鉱山概査報告. 7p., 2fig.

内容紹介

鉱床調査は 1956 年に行われた。鉱床は熊本県阿蘇郡小国町奴留湯の南東約 4 km の涌蓋山西麓にある。涌蓋山の角閃石安山岩の割れ目に沿う熱水性硫化塊鉱で、主に白鉄鉱から成る。品位は 33% Fe, 38% S で、Ge を 14 ppm 含む分析例がある。推定鉱量は約 10 万トン。

地質調査所研究資料集 No. 71

藤井紀之・河合辰夫

宮崎県小河内鉱山および千軒平鉱山調査報告. 12p., 7fig.

内容紹介

鉱床調査は 1957 年に 7 日間行われた。鉱床は高千穂線日ノ影駅の北方十数 km の、宮崎県西臼杵郡日之影町見立にある。地質は上部古生代と推定される砂岩・粘板岩・チャート・石灰岩などと、これらを一貫く第三紀のアプライト質花崗岩・黒雲母花崗岩から成る。鉱床は石灰岩と黒雲母花崗岩との接触交代鉱床で、千軒平・小河内の鉱山がある。鉱石は主として磁硫鉄鉱・黄銅鉱から成り、黄鉄鉱・磁鉄鉱・硫砒鉄鉱などを伴う。脈石は灰鉄輝石・柘榴石が顕著である。調査可能な千軒平鉱山での予想鉱量は 14,400 トン、品位は 21.4-45.8% Fe, 0.9-3.0% Cu, 2.0-31.1% S。

地質調査所研究資料集 No. 72

稲井信雄

宮崎県富高鉱山概査報告. 7p., 1fig.

内容紹介

鉱床調査は 1952 年に行われた。鉱床は日豊本線富高駅の北方約 2.5 km にあり、中生代の砂岩中に胚胎される割れ目充填型の硫化鉱脈である。脈の延長は 50-100 m、幅は 30-50 cm、鉱石の品位は 33-47% Fe, 37-50% S。

地質調査所研究資料集 No. 73

河野義禮・濱地忠男

宮崎県西臼杵郡三ヶ所鉱山調査報告書. 12p., 1fig.

内容紹介

鉱床調査は 1946 年に 3 日間行われた。鉱山付近の地質は、古生層の粘板岩(ホルンフェルス)・千枚岩・珪質粘板岩・輝緑凝灰岩・チャート・緑泥岩などの互層から成り、一般走向はN 45°-60°E、傾斜は 50°-60°EまたはWを示す。鉱床は緑泥岩中に胚胎される別子式の層状含銅硫化鉄鉱床で、稲荷・長野・通洞の 3 鉱床から成る。規模は、走向延長約 100-150 m、傾斜延長約 30-100 m、幅約 1-10 m。鉱石は主として黄鉄鉱から成り、少量の斑銅鉱・黒銅鉱・孔雀石及び藍銅鉱を伴う。黄鉄鉱は一般に細粒緻密だが、径 2 mm の粗粒の部分も認められる。平均品位は 1.9% Cu。入坑可能な通洞鉱床の推定鉱量は約 37,000 トン、銅量にして約 665 トン。

地質調査所研究資料集 No. 74

槇峯鉱業所

槇峯鉱山地質鉱床説明書 (昭和 25 年 3 月), 10p., 7fig. (所員のみ利用可)

地質調査所研究資料集 No. 75

廣渡文利・篠崎敬地・稻積英明・伊藤三郎

垣の尾鉱山合理化指導報告書, 11p., 5fig.

内容紹介

鉱床調査は 1971 年に行われた。鉱床は日豊本線佐伯駅の西方 15 km の大分県大野郡野津町大字垣河内にある。付近の地質は古生層のチャート・粘板岩・砂岩・輝緑凝灰岩および少量の石灰石から成る。地層の一般走向は N 40°-50° E, 傾斜は 50°-80° N または S を示す。鉱床はチャートと粘板岩との間に整合的に胚胎される。鉱体の下盤は千枚状ないし塊状チャートから成り、鉱体付近で著しく赤褐色化する。上盤は粘板岩（一部珪質）から成る。鉱床の規模は走向延長 150 m, 傾斜延長 65 m, 厚さ 1-2 m 最大 5 m。鉱石はブラウン鉱・栗色炭マン・白色炭マン・ベメント石を主とし、少量のチョコレート鉱を伴う。鉱石は縞状組織をなし、母岩のチャートが混入するため、全体の品位は 17-19 % Mn と比較的低い。

地質調査所研究資料集 No. 76

鹿児島県企画室

屋久島重石鉱床, 39p., 4fig., 6tab. (所員のみ利用可)

地質調査所研究資料集 No. 77

河野義禮

大分県新木浦鉱山砒鉱調査報告, 18p., 1fig.

内容紹介

鉱床調査は 1946 年に行われた。鉱床は日豊本線重岡駅の西方 24 km にある。付近の地質は古生層と思われる粘板岩と石灰岩の互層から成り、一般走向は N 50°-90° E, 傾斜は 60°-85° N を示す。鉱床は粘板岩と石灰岩との境界部に生じた熱水成鉱筒状鉱脈で、下盤は石灰石、上盤は粘板岩から成る。鉱床の規模は水平延長 130 m, 幅 15 m, 露頭から鉱体下部までの垂直高 320 m。主要鉱石は硫砒鉄鉱で、上盤際の硫化帯中に、厚さ 20-50 cm の帯状をして集中する。この部分の品位は 20 % As 以上で、品位 2 % As 以上の砒素確推定含有量は合計 2,500 トン。

地質調査所研究資料集 No. 78

河野義禮・濱地忠男

宮崎県土呂久鉱山砒鉱調査報告 10p., 2fig.

内容紹介

鉱床調査は 1946 年に 2 日間行われた。鉱床は高千穂線日ノ影駅から北方 30 km の西臼杵郡岩戸村大字岩戸にある。付近の地質は古生層の粘板岩・砂岩・石灰岩の累層と、これを貫く花崗岩から成る。鉱床は粘板岩と花崗斑岩との接触部に発達し、走向 E-W 傾斜約 70° N を示す。鉱床の規模は延長約 420 m, 深さ約 190 m, 幅 0.3-6 m。鉱石は硫砒鉄鉱を主とし、方鉛鉱・閃亜鉛鉱・黄鉄鉱・磁硫鉄鉱・錫石などを伴う。脈石鉱物は方解石・石英・柘榴石・斧石・ダンブリー石を産する。調査時点での確定鉱量は 2,520 トン、品位約 20 % As, 金属量 504 トンと算定される。

地質調査所研究資料集 No. 79

野田光雄・松隅寿紀・廣渡文利・橋本 勇

与論島および沖永良部島の地質と鉍床. 88 p.

内容紹介

与論島の地質は、古生層・琉球石灰岩層・隆起海浜堆積物・沖積層及び砂丘層から成る。グアノ質燐鉍床が矢倉・王居城・増木名・与倉・窪舎などにある。鉍床の規模は30-100 m, 鉍石の品位は15-25% P_2O_5 , 最大39%。1925-1953年の間に約1,100トン採掘された。沖永良部島の地質は、古生層及びこれを貫くトナル岩及びひん岩を、琉球石灰岩・国頭礫層・隆起海浜堆積層・沖積層及び砂丘が覆う。燐鉍床が知名町矢古母にある。鉍石の品位は17-38% P_2O_5 , 平均20%。昭和29年に150トン採掘された。なお、和泊町手々知名の北西1.5 kmに二酸化マンガンの鉍の団塊がある。団塊は茶褐色で径2-3 cm, 最大30 cm。地質調査年不明。巻末に燐鉍石の分類・肉眼及び顕微鏡的性質・化学組成・X線粉末写真・同定法及び燐鉍床の成因などが記されている。

地質調査所研究資料集 No. 80

肥田 昇

長崎県西彼杵郡見明鉍山石綿鉍床調査報告. 7 p.

内容紹介

鉍床調査は1948年10月に6日間実施した。鉍床は長崎県西彼杵郡蚊焼村榮上にあり、主として結晶片岩からなる古生層を岩床状に貫く蛇紋岩中に胚胎されている。採掘跡を中心に東西約30-70 m, 南北約20 mの範囲に角閃石系の石綿が1-3%含有される。東端1-2 mの部分は滑石化している。高品質の鉍石は温石綿に匹敵する。用途は紡績繊維・スレート用、粉状のものは熱機関の保温材など。鉍量は高品質のもの約1,200トンを含めて計21,400トンと算定される。

地質調査所研究資料集 No. 81

和田利雄

熊本県八代郡河俣村河俣鉍山石綿鉍床調査報告. 13 p.

内容紹介

鉍床調査は1947年6月に2日間行われた。河俣鉍床は鹿児島本線有佐駅の南東約16 kmにあり、古生層と推定される堆積岩を貫く蛇紋岩中に脈状あるいは網状に胚胎される。鉍床の規模は延長約700 m, 脈幅は富鉍帯で5-30 cm, 平均15 cm。富鉍部での石綿の含有量は20%, 実収鉍量は737トンと推定される。鉍石は蛇紋岩質温石綿で、繊維の長さは大部分が1 cm以下、平均5 mm程度である。石綿スレート用として好適である。

地質調査所研究資料集 No. 82

河野義禮

福岡県門司市恒見及び熊本県葦北郡佐敷町白雲岩調査報告. 17 p.

内容紹介

鉍床調査は1945年に行われた。門司市恒見のドロマイト鉍床は古生層石灰岩がドロマイト化してレンズ状又は脈状に産する。鉍床の規模は垂直延長50 m, 水平延長50 m, 幅20 m程度である。既に多量に採掘され、残鉍量は約5万トン以下である。熊本県佐敷町のドロマイト鉍床は鹿児島本線佐敷駅の北、約2 kmにあり、石炭紀ないし二畳紀の石灰岩中にドロマイト化した小レンズ又は脈として産出し、いずれも石灰岩塊を挟む。鉍量は約1万トンと推定される。

地質調査所研究資料集 No. 83

清原清人

佐賀県東松浦郡厳木町の石灰石調査報告. 7 p., 3 fig.

内容紹介

調査地は厳木町の西字土と鳥越のほぼ中間にある。地質は三郡変成岩類の結晶片岩から成る。石灰岩は陽起石片岩と角閃石石英片岩との境にレンズ状に挟まれる。地層の走行はほぼE-W、傾斜は一般に80°S。鉱体の規模は、走向延長250 m、傾斜延長50 m（採掘限度）、厚さ15 m。石灰石の品質は、白色ないし淡い雑色を帯びて、一般に塊状緻密。用途は農業用の生石灰や炭酸カルシウムに適する。鉱量は35万トンと推定される。調査年不明。

地質調査所研究資料集 No. 84

濱地忠男

熊本県葦北郡佐敷町九州石灰工業（株）苦灰岩調査報告. 8 p., 1 fig.

内容紹介

鉱床調査は1948年に行われた。鉱床は鹿児島本線佐敷駅の北西方約5 kmにある。苦灰岩は石炭紀-二疊紀の石灰岩を交代したもので、鉱床の規模は延長250 m、幅10-15 m程度。鉱量MgO含有量17%以上の上鉱が21,000トン、中鉱が21,000トンと算定される。

地質調査所研究資料集 No. 85

清原清人

熊本県佐敷付近の石灰石調査報告. 14 p., 5 fig.

内容紹介

鉱床調査は1960年に行われた。鉱床は鹿児島本線佐敷駅の北方約2 kmにある。この付近は秩父古生層の砂岩・チャート・輝緑凝灰岩及び石灰岩が互層する。一般走向はN 80°-90°Eで地区内にひとつの向斜構造がみられる。石灰岩の卓越する地層の厚さは模式的には80-130 mあるが、向斜構造により見かけの厚さは更に増す。石灰岩中にはドロマイトのレンズが挟まれる。石灰岩は鉱石としては良質だが、他の岩石の薄層を挟むので採掘上問題である。

地質調査所研究資料集 No. 86

濱地忠男

福岡県田川郡川崎町安宅長石鉱山長石調査報告. 7 p.

内容紹介

鉱床調査は1948年に行われた。鉱床は日田英彦山線の豊前川崎駅に近く、花崗岩中に発達するペグマタイト中に、小峠・荒曾の2箇所がある。小峠の鉱床は、ENE-WSW方向に延長約100 m、幅最大20 mの規模をもつ。長石は焼成色相が良好で、白色陶磁器原料に成り得る。鉱量は約1万トンと推定される。荒曾の鉱床は山腹傾斜に沿って高さ幅ともに十数m露出するペグマタイトで、石英中に長石が長さ2-3 m、幅最大数十 cmのレンズ状をして産出する。鉱量は極めて少ない。

地質調査所研究資料集 No. 87

濱地忠男

佐賀県小城郡南山村杉山鉱業所長石調査報告. 9 p.

内容紹介

鉱床調査は1947年に行われた。鉱床は筑肥線浜崎駅の南東約27 kmに位置する。鉱床は中粒黒雲母花崗岩を貫くペグマタイトである。ペグマタイトの走向はほぼN-S、傾斜は30°Sを示

し、規模は延長約 33 m、幅 20 m。長石の鉱量は 4,550 トンと推定される。この他に珪石の推定鉱量が 3 万トン見込まれる。

地質調査所研究資料集 No. 88

濱地忠男・井上秀雄

長崎県西彼杵郡長浦村・亀岳村・村松村長浦石綿鉱山の滑石調査報告。18 p., 1 fig.

内容紹介

鉱床調査は 1947 年に行われた。鉱床は長崎市の北方 20 数 km に位置する。地質は主として三波川系に層する石墨絹雲母片岩と、これに貫入する幅最大 400 m の蛇紋岩から成る。滑石鉱床の産状は、(1)石墨絹雲母片岩中の片理に沿う小レンズ状のもの、(2)蛇紋岩と石墨絹雲母片岩との境界に発達するもの、(3)蛇紋岩の周縁部の滑石化された部分に不規則な脈状のものがある。品質の良い部分は鉄分 5% 前後を含有し、陶磁器用には向かないが、粉末としては優秀である。鉱量は上記 (2)、(3) のものが多く、数百トン程度が推定される。

地質調査所研究資料集 No. 89

河野義禮

鹿児島県揖宿郡指宿町及び山川町付近の高陵土調査報告。16 p.

内容紹介

鉱床調査は 1945 年に 11 日間行われた。鉱床は指宿町烏帽子岳、今泉町松ヶ久保、山川町穴口女岳にあり、いわゆる指宿火山の側火山として噴出した両輝石安山岩の集塊岩が鉱化したもので、割れ目に沿う後火山作用として噴出した硫黄ガス及び水蒸気などにより変質して生じた。高陵土は旧藩時代から窯業原料として、また調査当時は耐火物原料として採掘された。鉱床の規模は、延長 20-30 m、幅 10-50 m、厚さ 3-5 m。推定鉱量は 43,000 トンで、品位優秀な部分は 3 分の 1 程度である。

地質調査所研究資料集 No. 90

藤井紀之

有田町付近の玻璃質岩概査報告。13 p., 2 fig., 1 tab.

内容紹介

地質調査は 1960 年 11 月に行われた。佐賀県有田町付近の地質は第三紀層及びこれを貫く第四紀の凝灰角礫岩・流紋岩・黒雲母流紋岩から成る。玻璃質岩は凝灰角礫岩と流紋岩との接触部が急冷して生じた黒曜岩と、黒雲母流紋岩の周辺部に伴う松脂岩質の 2 種がある。黒曜岩質の鉱石は中野鉱床で厚さ 40 m 以上に達し、ビール瓶など下級ガラスの原料として利用されている。松脂岩質のものは猿川鉱床と英（はなぶさ）山鉱床に産し、猿川では厚さ約 10 m、鉱量は 3 万トン程度、英山では約 3 千トンがそれぞれ予想される。玻璃質岩の化学分析及び発泡試験を佐賀県窯業試験場中橋健雄氏が行い、結果が本文及び付録に掲げられている。

地質調査所研究資料集 No. 91

野元堅一郎

鹿児島県内珪藻土鉱床調査報告。14 p.

内容紹介

鉱床調査は 1954 年に鹿児島県工業試験場によって行われた。鉱床は、山野・溝辺・重富・吉田・蒲生・郡山・樋脇・大村・蘭牟田・中津川・黒木・東郷・山川などがある。主要な鉱床を構成する珪藻の種類・化学分析値・鉱量が記されている。調査当時の鉱量は最大 10 万トン（溝辺）。

地質調査所研究資料集 No. 93

野中保之・林 清久

福岡県久留米南方野添亜炭概査報告書. 8 p.

内容紹介

調査は1947年に行われた。炭砒は鹿児島本線荒木駅から1 kmにある。地質は古生代の片岩類を不整合に覆う第四紀（あるいは新第三紀最上部）層から成り、最下部の砂質頁岩と礫岩の互層に亜炭層がはさまれる。亜炭層は、走向N 80°E、傾斜34°Nを示す。厚さは20-30 cm。炭質は良質木質亜炭。

地質調査所研究資料集 No. 94

岡崎正路

黒木炭砒概査報告. 6 p.

内容紹介

調査は1947年に行われた。炭砒は福岡県の矢部線黒木駅から矢場川沿いに東へ数百mの河畔にある。地質は古期の千枚岩・片岩類を不整合に覆う浮石質凝灰岩と、その上に不整合関係で水平に重なる含亜炭層などから成る。亜炭層の厚さは上層が30 cm、下層は60-100 cmで木部が少なく炭質である。調査当時の鉱床の規模は、走向延長150 m、傾斜延長250 m、厚さ平均0.8 m。確定鉱量は33,000トン、予想鉱量198,000トン。

地質調査所研究資料集 No. 95

岡崎正路

湯納楚炭砒現況. 6 p.

内容紹介

調査は1947年に行われた。炭砒は福岡県の鹿児島本線荒木駅東方約2.5 kmにあり、夾炭層は第四紀層に胚胎される。亜炭層の厚さは上層30-45 cm、下層60 cm。炭質は木質亜炭で、焼くと特有の臭気が特に強い。発熱量2,271-5,215 kcal/kg。

地質調査所研究資料集 No. 96

土田耕造

宗像炭田地質調査報告. 26 p.

内容紹介

調査は1951年に行われた。炭田は福岡県の鹿児島本線赤間駅と東郷駅を含む区域に広がる。地質は花崗岩類・ひん岩類を不整合に覆う古第三紀東郷層群から主に構成される。炭層は東郷層群の相原層及び池田層に産出する。池田層中の炭層は炭丈・炭質ともに良好で、厚さ1 m前後の炭層が9枚ある。

地質調査所研究資料集 No. 97

高井保明・原田種成

佐賀炭田新屋敷炭砒地区調査報告. 42 p.

内容紹介

調査は1948年に29日間行われた。炭砒は佐賀県東松浦郡相知町にある。夾炭層は古第三紀相知層群に属する芳の谷層で、約15枚の炭層のうち5枚が稼行可能。炭種は低度瀝青炭。発熱量は5,800-6,800 kcal/kg。炭量は確定45万トン、推定75万トン、予想1,779万トン。

地質調査所研究資料集 No. 98

野田光雄

北松炭田南部地区地質調査報告. 10 p., 2 fig.

内容紹介

調査は1948年に行われた。地域は佐世保市西部の日野を中心とする。地質は主として相浦層から成る。炭層は「二枚物」「下三尺」「上三尺」「モエズ上層」などがあり、炭丈は約60cm以下。日野付近の地質図と炭柱図が示されている。

地質調査所研究資料集 No. 99

瀬尾福実・池 芳人

平戸亜炭調査報告. 5 p.

内容紹介

調査は1947年に行われた。炭砒は長崎県平戸島北端にある。来炭層は第三紀安山岩の上に堆積し、玄武岩に覆われている。主要な炭層の厚さは75cm。炭質は極めて炭化が進んだ部分と木質の部分があり、発熱量は3,500-4,200 kcal/kg。埋蔵量は少なくとも75,000トンで、約20万トンが予想される。

地質調査所研究資料集 No. 100

原田種成

天草炭田五和・苓北町地区地質調査報告書. 8 p., 1 fig.

内容紹介

地質調査は1959年頃に行われた。地域は熊本県本渡市の北西約7km、城河原集落の南西約2kmにある。地質は古第三紀の赤崎層・深海砂岩層・教良木層・砥石層・一町田層・坂瀬川層から成る。地層の傾斜は20-40°Eを示す。主要な炭層は砥石層に胚胎され、シリスケ層・四尺層・二尺層・八寸層と呼ばれる。地区のほぼ中央を田代断層がNNW-SSE方向に走る。断層は東落ちで、落差が約380mあるため、その東側では地表から炭層までの深度が約780mに達する。

地質調査所研究資料集 No. 101

片山 勝

天草炭田和久登・涼松炭鉱地域地質調査報告. 11 p

内容紹介

地質調査は1952年に行われた。地域は熊本県天草下島の北西部、本渡市の西約9kmにある。地質は古第三紀始新統の本渡層群と坂瀬川層群とから成る。炭層は本渡層群の砥石層に胚胎されている。採掘可能な炭層は四尺層および二尺層で、炭丈は35-67cm。いずれも東及び南に向かって発達不良となる。

地質調査所研究資料集 No. 102

清原清人

天草炭田旭炭砒地質調査報告. 7 p.

内容紹介

地質調査は1953年に行われた。炭層は古第三紀砥石層に胚胎されている。火山岩の岩床が炭層に侵入し、その熱変成作用によって「カワラケ炭」と呼ばれる上質の無煙炭（天然コークス）を生じている。熱変成の程度は5帯に分けられる。

地質調査所研究資料集 No. 103

高井保明・原田種成

熊本県天草炭田牛深地区調査報告. 87 p., 4 fig.

内容紹介

地質調査は1947年に40日間行われた。地質は主として古第三紀始新統から成る。地層はNNE-SSW方向の軸をもつ複向斜構造を示す。炭層は砥石層に胚胎され、採掘可能な炭層は三尺層及び二尺層である。炭質は半無煙炭。調査当時、今富・魚貫・権現山・南天・牛深の各炭砒で稼行中。炭量は、確定720万トン、推定780万トン、予想1,400万トン。牛深町南西の海底部が最も将来性があり、その区域の炭量は、確定15万トン、推定23万トン、予想960万トン。

地質調査所研究資料集 No. 104

高井保明・原田種成

天草炭田坂瀬川・本村地域地質調査報告. 26 p., 2 tab.

内容紹介

地質調査は1952年に行われた。地域は熊本県天草下島の北部にある。地質は古第三紀始新統の上島層群(本渡層群)と坂瀬川層群とから成る。これらを角閃石安山岩が岩床状に貫き、熱変成作用を与えている。地層は6-30°Eの傾斜を示す。炭層は上島層群の砥石層に胚胎されている。採掘可能な炭層は二尺層で、炭丈は最大65cm 平均30-40cm。炭質は角閃石安山岩の熱変成作用によりコークス状無煙炭になっている(A2級)。発熱量5,800-7,100 kcal/kg。推定埋蔵炭量237,000トン。

地質調査所研究資料集 No. 105

室井周一・森永陽一郎

飯野亜炭田調査報告. 12 p.

内容紹介

地質調査は1947年に11日間行われた。調査時は宮崎県西諸県郡飯野町末永で、吉都線飯野駅の南南東約4kmにある。付近の地質は主として、下位から旧期霧島火山岩・灰石層・來炭堆積層・新期霧島火山岩で構成されている。亜炭層は2-3枚あり、厚さは0.5-1.3m。約200m北方にも露出が認められる。地表に近いので露天掘りが可能。炭質亜炭で木部はほとんど認められない。発熱量は3,000 kcal/kg。確推定炭量は約110万トン。

地質調査所研究資料集 No. 106

高倉惣九郎

都農川南地区亜炭調査報告. 7 p.

内容紹介

地質調査年は恐らく1940年代後半。調査地は宮崎県の日豊本線都農駅北北西約6km。亜炭層は第四紀の白色粘土層に胚胎される。表土から1.2-3mの深さにあり、心見川右岸に露出する。炭層の厚さは約1m。炭質は木質。かつて約50m掘進されたという。

地質調査所研究資料集 No. 107

稲井信雄

九州におけるマンガン鉱床に伴う核原料物質調査. 14 p., 2 fig., 3 tab.

内容紹介

調査は1962年に行われた。調査したマンガン鉱床は、長崎県の琴海村、熊本県の栗木地区・矢源谷地区・長者鉱山・池鶴鉱山・八代鉱山、大分県の西山鉱山・千怒鉱山ほか、宮崎県の秋元

鉱山である。鉱床はいずれも古生層のチャート・粘板岩などを母岩とし、鉱石はブラウン鉄・チョコレート鉄・パラ輝石などから成り、一般にマンガン品位は高い。放射能測定の結果、鉱床近くの粘板岩に、わずかながら放射能異常が認められた。黒鉛質粘土を含む断層には、例外なく高い放射能が検出された。これは粘板岩などに含まれるものが二次的に濃集したものと考えられ、資源的には、ほとんど期待できない。

地質調査所研究資料集 No. 108

木下亀城

佐賀県杉山鉱山における核原料資源について 第1報, 7 p., 9 fig., 1 tab.

内容紹介

鉱床調査は1957年に行われた。鉱床は佐賀県小城郡富士村杉山にある。地質は黒雲母花崗岩(東松浦花崗岩)と、それを貫く細粒-中粒両雲母花崗岩から成る。鉱床はペグマタイトで、走向N 20°-40°W, 傾斜45°Eないし60°Wを示す。鉱床の規模は延長60 m, 幅30 mである。鉱石はベリルが第2次世界大戦中に採掘された。放射性鉱物のコルンブ石が産出したとされている。放射能測定の結果、ペグマタイト中の長石は10-20 $\mu\text{R/h}$ を示すが、放射性鉱床は認められなかった。

地質調査所研究資料集 No. 109

木下亀城

佐賀県杉山鉱山における核原料資源について 第2報, 24 p., 3 fig., 5 tab.

内容紹介

杉山鉱山で最大の放射能強度を示す1号鉱床は、黒雲母花崗岩中のペグマタイト脈で、カリ長石・白雲母を多量に伴う。ペグマタイト鉱物は、多量のカリ長石・柘榴石と、白雲母・モナズ石・フェルグソン石などから成る。放射能異常値はフェルグソン石の存在によると考えられる。花崗岩類及び放射性鉱物の顕微鏡観察結果と、フェルグソン石のX線粉末回折データが示されている。

地質調査所研究資料集 No. 110

木下亀城

脊振山西南部の花崗岩地域における核原料資源調査報告書, 23 p., 4 fig., 2 tab.

内容紹介

鉱床調査は1957年頃に行われた。調査地は佐賀県小城郡富士村・三瀬村・脊振村及び佐賀市の一部に亘る。地質は中生代各紀の花崗岩から成り、随所にペグマタイト・アプライト・石英脈が存在する。放射能測定の結果、杉山・広沢・大ノ原・金立山の各鉱床で、ペグマタイト中に放射能鉱物が比較的密集している。広沢鉱山産サマルスキー石のX線粉末回折データが掲げられている。

地質調査所研究資料集 No. 111

稲井信雄・原田種成

熊本県八代郡泉村・球磨郡五木村地内のマンガン鉱床周辺の放射能調査, 14 p., 4 fig., 2 tab.

内容紹介

鉱床調査は1960年に行われた。調査地は鹿児島本線有佐駅又は八代駅の東約20 kmにある。地質は古生層から成る。矢源谷・栗木・池ノ鶴・長者の各マンガン鉱床があり、珪岩に胚胎されている。鉱石は菱マンガン鉄・パラ輝石・緑マンガン鉄・二酸化マンガン鉄などから成る。放射能測定の結果は、自然計数の2倍以下(4-11 $\mu\text{R/h}$ 程度)で、とくに異常値は認められな

かった。

地質調査所研究資料集 No. 112

木下亀城

鹿児島県紫尾山西北山地放射能調査報告. 9 p., 5 fig., 2 tab.

内容紹介

調査は1958年に行われた。調査地は出水市及び高尾野町の一部。地質は主として、時代末詳中生層の砂岩シルト岩互層と、これを貫く花崗閃緑岩、これらを覆う新期火山岩類から成る。小規模な鉱脈型鉛垂鉛鉱床が花崗閃緑岩体の周辺に濃集する。放射能測定の結果、この地域では20-40 $\mu\text{R/h}$ の値を示し、鉱床も母岩と大差なく(30)、異常値は認められなかった。

地質調査所研究資料集 No. 113

福岡県経済部工務課

福岡県の工業用水. 32 p. (所員のみ利用可)

地質調査所研究資料集 No. 114

村下敏夫・松井和典

長崎県生月町水道水調査報告. 9 p., 1 fig.

内容紹介

地質調査は1972年に行われた。調査地は平戸島の北北西にある面積16平方kmの細長い島である。簡易水道の水源は、主として表流水と湧水である。調査当時、町が検討していた西海岸の海岸湧水は、集水面積が小さく、湧水量も少なく、汚水処理場の廃水による汚染がある。恒久的な新水源は、南部にある神ノ川の表流水と結論される。

地質調査所研究資料集 No. 115

波多江信広・露木利貞・竹崎徳男・郡山 栄

与論島水資源調査報告書. 12 p., 8 fig., 4 tab.

内容紹介

地質調査は1963年に鹿児島県の企画で行われた。地質は琉球弧の古期岩層帯に属し、古生層を不整合に覆って発達する琉球石灰岩・砂丘砂層・現生サンゴ礁などから構成されている。全島がほとんど琉球石灰岩で覆われているので川はなく、飲料水などの利水は井戸又は湧水による。井戸50箇所の平均値は、水面までの深さ12.5m、湛水深1.0m、水温22.6°C、比抵抗1,320 Ωcm 。地下水は北東部地域で最も多く、琉球石灰岩層中に帯水する上層と、古生層基盤上の下層とがある。

地質調査所研究資料集 No. 116

稲井信雄・原田種成

筑後川水系大山川松原杖立発電所地点地質調査報告書. 8 p., 6 fig., 1 tab.

内容紹介

調査地は大分県日田郡大山村・五馬村にある。地質は松原層・貫見溶岩・松原溶岩・権現山溶岩・万年山溶岩・先耶馬溪溶岩・耶馬溪溶岩又は阿蘇溶岩が累重し、これらを砂及び礫層と崖錐堆積物が覆う。発電所は、いずれも急な斜面を利用して水槽又は水圧管を設け、河岸段丘の平地に発電所の建屋を建設する計画である。問題は水槽・水圧管を崖錐部分に建設する場合、試錐調査により基盤までの深さを確かめる必要がある。